資料６

未定稿

関西広域連合協議会での主な意見（概要）

日　時：平成 31 年 4 月 25 日（木）13:00～15:15
場　所：大阪国際会議場 10 階

○ 地方創生が掲げられているが、依然として東京への一極集中が止まっておらず、関西も人口が減っている。また、自然増として期待される合計特殊出生率も関西は全国より低い。地方創生について、政府も広域連合も懸命に取り組んでいるが、あまり成果として現れていないのが現状である。今までのやり方が間違っているとは思わないが、何か新しい工夫や発想が必要。

○ いま中学で一番学業成績が良い、東京のある中学校では、宿題を出さず、期末試験もしない、今までの型を破って生徒の学習能力、成績を上げることに取り組んでいる。地方創生の原点は、住みやすいまちをつくるということで、そのために、何か少し発想を変えてみることも必要。

○ 災害医療は地域にとって非常に大事なことで住みやすい社会にとって必要なこと。関西広域連合では様々な活動に取り組み、そのレベルも上がっているが、それが皆に知れ渡っていない。住民の方々と対話を重ねて、広域連合の活動や関西地域の素晴らしさを知ってもらうことが重要。

○ 関西広域の将来像を見据えて、関西広域連合が持つ力を強化し、さらに進化し、関西広域連合らしく実行性のある取り組みを進めるために、経済、環境、労働環境面での持続可能性を保持する、サーキュラーエコノミー（経済の循環）のプラットフォームを構築することが重要。いま関西広域全体として働いていない、人、モノ、設備、技術、施設などの情報を共有し、シェアするためのプラットフォームや、資源回収とリサイクルを府県を超えてビジネスモデル化していくプラットフォームをつくることが挙げられる。

○ 環境に配慮したエシカル消費の推進、SDGｓの 17 ゴールの達成、アドホックな組織の活用、関西広域の将来像を見据えて経済循環を考える視点が重要。

○ 「広域行政のあり方検討会 報告書」の関西の将来像に書かれている、多様な主体がそれぞれの力を発揮して、地域課題のためにオール関西で関西の発展をつくっていくためには、シンボリックな取り組みが必要。関西広域現代版の三十三ヵ所をつくってはどうか。

○ SDGｓの理念を織り込んでいくことが重要であり、ごみゼロの取り組みなど、地味だけれども、今の時代にとって大切なものを見つけて発信していくことが、新たな価値を見出し、シンボリックな取り組みにつながる。

以上